

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391300019		
法人名	株式会社 サンメディックス		
事業所名	グループホーム にこピア浄法寺		
所在地	岩手県二戸市浄法寺町上前田34番地		
自己評価作成日	平成27年1月8日	評価結果市町村受理日	平成27年6月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0391300019-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0391300019-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成27年3月2日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

竹内式認知症にとりくんでおり、活動による認知症の進行を最小限に抑えられるよう関わりをもっている。特に活動内容では運動に重点を置き、日々のリハビリ大層、歩行では広い敷地内を活用して、散歩、外気浴をする機会を設け、心身の低下を極力防ぐ事ができる環境である。  
施設管理面では地域消防団員との連携が図れており、災害時の時に緊急対応ができる体制をとっている。他に施設の敷地内にゲートボールを6コート備えており、地域住民との関わりをもつ環境もできている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

会社の理念とは別に、ホーム独自の理念を作り日常の対応に活かしている。利用者と職員が家族のように支えあい、意思疎通が図られている。管理者は個々の職員の家庭環境に配慮した勤務体制にして、職員が働きやすい環境を作っている。運営推進会議の委員側から、ホームに対して協力、改善にかかる意見が出され、ホームにとって力強い応援である。廃校になった小学校を使い、地域の交流拠点としての役割も担いながら、地域に溶け込む努力をしている。地理的に不便な面もあるが、地域の住民たちの温かい思いやりに(冬季間の除雪等)支えられた温かいホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の挨拶、普段の関わり、終了時の挨拶と理念に掲げている「おもてなし」を念頭に利用者に関わりをもっている。	会社とは別にホーム独自の理念の「思いと一緒に考え、今この一瞬を大切に日々を共に歩みます」を作り、日々のケアに活かしている。入居者の細かい状況を連絡ノートに記載をし、全職員で共有して日に2度の申し送り時に確認をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設前にはゲートボール場を備えており、見物等で住民との関わりをもっている。他に行事での地元住民より踊りの披露に関わりをもっている。	運営推進会議の委員の方々の声かけで、徐々に地域との交流が広がりを見せてきている。ゲートボールに来た地域の方が、終了後にホームに立ち寄りお茶を一緒に飲んだり、会話を楽しんでいくこともある。中学生が慰問に来たり、踊りのボランティアが見えたりと、交流をしている。除雪も地域の方に助けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	パンフレットを行政に配布しており、無料体験をしていただけるよう呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での課題定義に対して、委員メンバーで解決策を考えている。解決策を実施してサービスの向上に努めている。	入居者の情報を伝えたり、ホームで抱えている問題の相談に乗っていただいている。委員からは率直な意見や、助言が出ており、ホームの応援団である。外出傾向の強い方が1名おり、地域の方々のお手伝いを、お願いできればと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	渉外活動を通じて、施設状況の伝達、近隣事業所状況の情報交換をしている。地域の方に対しては、運営推進委員との意見交換を実施している。	毎月1回市のケア会議があり、管理者が参加している。広域のケアマネジャー会議には、ケアマネジャーが出席している。分らないこと等は、窓口で指導を頂いたり、連絡を密に取るなど、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通じて、身体拘束について理解に努めている。契約時、ご家族にも身体拘束を説明して理解して頂いている。	身体拘束については、月1回の職員会議や、勉強会で周知しているが、「ちょっと待ってね」は、使ってしまうこともあり、職員間でルールを作って、言葉での拘束を排除する方向に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会を通じて、虐待について理解に努めている。虐待事例はないが、ご家族について説明をして理解して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通じて、権利擁護について理解に努めている。現利用者にも利用している方がいる為、包括的にサービスをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、利用者、または、ご家族様へ不安な点や疑問点を確認している。説明をする事で、入所に至る不明な点を解消する働きをしている。料金の改定があった際、個別に連絡をして説明をし、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場を活用して話し合いをもっている。施設内には意見箱を設置しており、意見を汲み取れるよう働きかけを行っている。	家族の意見を聞くにあたって「家族の困ることはない」が基本である。家族からは、夏場、ホームが暑い、建物周囲の環境を整備して欲しい、などの意見が出ている。個別な用件がある時には、個別相談も受けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の関わり、職員会議を通じて職員の意見をもとに、業務改善に努めている。	それぞれの部署に介護リーダーがおり、リーダーから管理者へ、職員から管理者へ、意見等を言える体制が築かれている。食事作りに時間がかかる、経費を節約したい等、職員の工夫で改善に向けて進められている。会社に上申する時には、職員がまとめ、意見を述べることとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な職員会議の開催。及び、随時の意見交換により、意見を反映する事で働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内・外の研修に参加し、学んだ知識を勉強会を通じて、職員に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	渉外活動、外部研修で情報交換、意見交換の場をもっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に困っている事、不安な事、要望に対して不明点を解消できるよう話し合いをもっている。入所後も状況報告をして、安心して利用できる環境をつくっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見、要望を口頭、または書面でのやりとりを行い確認している。ケアマネージャーを中心に要望に対して具体的な支援内容に反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたうえで、グループホーム以外のニーズに対しては、併設事業所を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のペースに合わせて対応している。共同生活をしていく中で、個々の役割ができており、一緒に活動する事で相互関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、広報誌を発行しており、現状報告をしている。家族に協力をさせていただきたい事は電話にて相談をして、対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事等の参加により、関係性の継続を図っている。要望に対して、ご家族と連絡をとり、外出の機会をもつ事で馴染みの環境との関係を継続している。	地域のお祭り、お盆の墓参り等行きたい場所を自分から希望する方には、いつ頃なら行けますよ、と伝えて出かけたり、ドライブの途中に家の前を通ったり、通いなれた床屋さんに出かけたりしている。希望があれば、速やかに対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者や隣席にするようにしており、交流の機会を設けている。職員としては全利用者に声かけをして交流をする場をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も関係者へ情報提供をしている。ご家族にも相談された際、情報提供をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当を配置しており、担当を中心に本人の意向を汲み取るようにしている。ケアマネージャーを中心に、意向に対して実現できるよう職員で話し合い、自己実現できる場をつくっている。	利用者の入居前の状況や過去の出来事を、家族から聞き取り、日々のサービスに反映させているほか、1ヶ月毎の利用者の状況を居室担当がまとめ、家族への情報提供を広報紙等により行い、家族の意向の把握にも努めている。連絡ノート等を通じて、利用者の希望を職員で共有し、利用者本意の業務を行なっている。発語が困難な方が1名おり、完全な汲み取りは出来ないが、家族からの聞き取りなどで、(その方の)思いに近づくように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴をもとに関わりをもっている。その中から本人の訴え、要望を確認して、職員で情報共有して利用者との関わりをもっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、日誌をもとに、申し送りを通じて一人一人の状況を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ケアカンファレンスを開いており、現状に即した対応をしている。	毎月、職員全員でカンファレンスをして、状況の把握をしている。6ヶ月ごとの見直しであるが、状況の変化に応じて随時、対応している。担当、ケアマネージャー、介護職員で作成し、家族の意見も聞いている。遠方の家族には郵送で(計画を)送り、広報も同封している。家族は、安心して暮らせることが何よりの希望である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡帳、介護記録を活用して、話し合いをもったうえでケアプランを作成している。緊急の場足は終礼時に話し合いをもち、今必要な支援を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者を併設事業所へ足を運び、交流の幅を広げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	除雪、訪問での散髪、住民からの情報提供と地域からの情報をもとに活動している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診、緊急時の対応、不明な点の相談をして方向性をだす関係である。	かかりつけ医を変更した4名は、通院介助をホームでしている。5名の方は、家族が行っているが、通院に際して、日常の情報を医師に提供している。気になる部分はコピーして通院録にファイルしている。緊急時は、浄法寺診療所の指導を受けて、対応することになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきを看護師へ報告している。必要時、受診をしている。受診後、ご家族へ状況報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホーム長、ケアマネージャーを中心として関係者との情報提供をしている。退院後のフォローについても関係者と調整をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化について、家族と話し合いをもち、家族に安心感をもらえるように関わりをもっている。	入居に際して家族には、病院との連携が無いこと、事業所として経験が無いことを説明しているが、医療サポートは出来ることを伝えている。将来を考え、重度化対応の知識と技術を学ぶことを考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習で学んだ知識を活用している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を通じて、地域消防団員との連絡体制、協力体制を築いている。	緊急連絡網を作り、避難訓練も行っている。主に地震を想定した訓練で、午後2時半に夜間想定で行った。運営推進会議の委員でもある十二分団長や、団員の協力で行い、指導も受けている。発電機、水、レトルト食品等の備蓄をしている。ホール入り口には、9枚の防災頭巾が備えられている。	近隣の住民による防災への協力体制の構築のための話し合いと、薄暮時間帯による夜間想定避難訓練の実施に向けた検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マニュアルをもとに、一人一人に合った声かけをしている。	接遇マニュアルは、会社の所属するSGグループのものを使用している。特に個室での自由の確保、人格の尊重には配慮し、敬語や親しみのある言葉の使用に注意している。入浴の際の体へのタオル掛けやトイレへの誘導などに気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	馴染みの職員と、利用者の関係ができており、利用者からの訴えが聞かれる環境である。要望に応えられるよう調整をして対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の行動に制限を設けていない。訴えにあわせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向に合わせて家族動向にて馴染みの美容室で散髪を行う方もいる。困難な方に対しては、近隣の美容室より、定期的な訪問での散髪行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者からの訴えにより、献立を作成する事もある。季節に合った食材を利用したり、利用者で食事づくりと行い会話をはさみ楽しんでいただけるよう、支援している。	献立は、1ヶ月ごとに職員で立てている。常に入居者に食べたいものを聞き、(それによっては)献立変更も対応している。買い物、皮むき、炒めるなどを行う方、茶碗拭きをする方など、出来る範囲での参加をして頂いている。利用者、職員とも同じ食事を食している様子は、ほのぼのとしており、穏やかな雰囲気を感じさせる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック、水分チェックをしており、本人の摂取状況を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力での口腔ケアを行っている。口腔ケアが不十分な方に対しては声かけをして、できる限り自己での口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握できるように努めており、定期的なトイレ誘導を行っている。	2名の方は見守り支援であるが、全員に声掛けをしている。他の入居者は布パンツとパットか、リハビリパンツとパットを使用している。誘導も穏やかに行われており、さりげない誘導で対応がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の飲用。適度な運動量、水分摂取と活動の機会をつくり便秘改善。または予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員のペースではなく、あくまで利用者のペースで入浴をして頂いている。	週3回を目安に、火、木、土曜日の午後1時半～夕方4時の時間帯に、日勤者が9名の方の対応をしている。熱めの湯が好き、長湯が好きなど、それぞれにあった方法で入浴して頂き、拒否がある時には、時間を置いて声を掛けている。入浴剤を使って安らいでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の入床時間に合わせて、対応している。ホールにてテレビを見て過ごしており、個々のタイミングで入床をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の状況に合わせて対応している。服薬後の状況に合わせて主治医に相談して薬調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできる事を把握したうえで、日常生活での役割をもって頂き、活動している。嗜好品を食事に取り入れたりして、楽しみをもっといただくように工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	会話の中での訴えを実現できるようにしている。散歩、家族への電話連絡と訴えによる自己実現の機会をつくっている。	食材の買出しに2名の方が同行している。ゲートボールを観戦したり、会話を楽しんだり、職員も同行しながら地域を散歩もしている。雪の多い時期には、体操をして体を動かしている。車で天台寺、漆の里、紅葉狩りに出かけている。以前、行ったことのある場所への外出は、安心に繋がっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができています。本人管理をしています。困難な方に対しては施設管理として、金銭使用時に直接、手渡しをして支払いをしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており、利用者がいつでも使用できる状態である。番号の認識が低下している場合は職員が番号を押し、電話をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、廊下に掲示物をしており、季節感を感じられる工夫をしている。居室、トイレの認識力が低下されている方に対して、目の届く位置にわかりやすい文字を表記して、認識しやすい環境をつくっている。	干支のちぎり絵、手袋で作ったぬいぐるみ(地域の文化祭に出展した)が置いてある。廊下には、大きな天窓があり明るい。冬季間は寒くて大変である。畳小上がりがあり、コタツが置かれており、自由に利用が出来る。夜間は職員の見守り場所に使われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士を隣席にするよう配慮をしている。ホールにはソファを設置しており、利用者同士交流しやすい環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた所持品を置き、安心感を得られる環境をつくっている。ご家族にも説明をしており、使い慣れた物を用意して頂いている。	元々の建物が、教室として建てられたため天井が少し高い。ファンヒーターを21度に設定し、湿度は30%を保っている。居室には、位牌、筆筒、カーペット、使い慣れたベット、テレビ等の持ち込みがある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は手すりの設置、バリアフリーとなっており、行動に極力支障がない状態である。トイレの場所等の認識がされていない時は、声をかけて案内を行っている。		